

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当時に、職員皆で、介護への思いを出し合い、当事業所の理念を作成した。職員会議のときに、理念の確認をし、可能な限り、利用者一人ひとりの意見を尊重しながら、日々の介護に活かすようにしている。	理念は開設時にスタッフと話し合い作成しました。事業所の玄関に理念を掲示し、職員会議の際には理念を唱和し、確認する事で実践できるように努めています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる行事には、積極的に参加したり、保育園や学童との交流の機会を設け、事業所が孤立しないよう心掛けている。また、散歩に出たときにも、元気に挨拶をするようにしている。	地域の敬老会から行事の際に声を掛けていただき参加したり、地域の保育園にご利用者と一緒に出かけするなどして地域との交流を図っています。また、地域の福祉祭りではボランティアの協力も得て、ご利用者がハーモニカの演奏を披露しました。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域小・中学校で行われた海岸清掃にボランティアで参加したり、旧山北地域福祉祭にて、入所者全員と職員で、ハーモニカの演奏と歌を披露した。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回第4水曜日を会議の日と決めて実施している。地域住民代表の方や民生委員の方などから頂く情報を活用し、レクリエーションを実践している。	運営推進会議は市の担当者、包括支援センター職員、民生委員などに出席していただき、利用状況、事故報告、活動状況の報告と事業所への意見を頂くなどサービスの向上に繋げるようにしています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場や支所への用足しの際に担当者や保健師などと意見交換をしたり、相談などを行っている。	市の担当者には運営推進会議にも参加していただいております。管理者も以前在宅介護支援センターに勤務していたことあるので、気軽に相談をできる関係ができています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	関係文書が届いた際に、職員に説明し、身体拘束についての確認をしている。玄関は、朝6:30過ぎに開放し、夜19:30頃に施錠している。日中は開放しており、利用者も散歩などに行きやすい環境づくりに努めている。	言葉の抑制、金銭の抑制などのグレーゾーンも会議で職員間で共有する機会を設け、身体拘束に対する理解を深めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的にはもちろんのこと、言葉による虐待も起こらないように職員間でも注意しながら、援助している。	虐待に関しては外部研修参加者から職員会議で報告する機会を設け、職員間での共有を図っています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入所中の方に関しては、金銭面等の理由により、制度利用をされている方は居ない。また、職員には、折に触れ、制度の話をしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族には、入所される時に紙面を用いて説明をしている。また、不明な点については、都度聞かれた時に再度説明をしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、意見箱を設置したり、面会に来られたときに話をするようにしている。以前、職員の顔と名前が一致しないとのこと意見を戴き、広報誌にて、職員紹介をさせていただいた。	前回の課題であった意見箱も設置されており、日々のご家族とのやりとりの中で意見や要望については確認をしています。またバーベキュー大会などのご家族が集まる機会を設け、懇親を図っています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	仕事終了後や休憩時間以外でも自由に意見などを言える環境づくりをしている。	日々の申し送り、毎月の職員会議や日頃の業務のなかで管理者に意見を言える関係が構築されています。また、状況に応じて管理者により個人面談も行なわれています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞きながら、職場の環境づくりをしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に2回は、外部研修を受けるようにとの指示があり、管理者が、職員の実情に見合った研修や本人が受講したいという研修は受講できるようにしている。また、感染症については、外部講師を招き、ホーム内で研修を実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1度、圏域のGH管理者意見交換会を開催し、意見交換や相談などを行っている。また、職員間の交流を図るため、年一回、職員の交流会も開かれている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃から、入所者とコミュニケーションを図るようにしている。また、担当者制を導入し、ご本人の要望などが、表出しやすい雰囲気作りをしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	月に一度、請求と一緒にご本人の生活の様子、体調などを文章化してお伝えしている。また、御家族の方が面会に来られた際に、ご意見や要望などを伺って日々の援助に反映するようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の生活の様子をみて、ご本人の要望や御家族の方の要望などを踏まえ、援助方法検討している。また、必要に応じ医療機関への受診なども迅速に対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者を人生の先輩として、野菜作りや花の育て方などを聞いたり、料理方法を聞いたりしながら良い関係の構築を図っている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人への対応をどうしたら良いか相談したり、家族の方にも施設に出向いていただくよう働きかけながら、関係づくりに努めている。	3ヶ月に1回事業所の広報誌を送付しているほか、毎月ご利用者毎に管理者がお便りを作成し、ご家族に状況をご理解いただいています。	外出行事の際にはご家族にも参加をしていただけるように、案内を出されることを期待します。
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	集落行事や地域のイベントには積極的に参加するようにし、馴染みの関係を断ち切らないように気をつけている。	馴染みのスーパーへの買い物、行きつけの美容室への外出支援、地域の行事などに出かけることで、これまでの関係を継続できるように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員から積極的に声がけを行い、一緒に作業をしたり、活動したりしている。また、意図的に入所者に同じ話題を提供し、会話のきっかけを作っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談や支援を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が望む生活スタイルに近づけるように、職員会議を有効に活用し、援助できるように検討している。	毎月のカンファレンスでご利用者の要望を職員間で確認し、その都度対応するようにしています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族よりの聞き取りや在宅担当ケアマネージャーより、情報を収集したり、買い物や散歩などに出掛けた際に知り合いの方からお話を伺ったりして、把握に努めている。	センター方式にて契約時の聞き取りのほか、日々の暮らしの中で得られた情報も追加し、毎月の職員会議で共有しています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、出来ること・出来ないことを見極め、職員間で情報を交換しながら、把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議の場やその都度問題提起されたことについて職員皆で検討し、援助に繋がっている。	介護計画については3ヶ月に1回定期的な見直しを行っているほか、ご利用者の状況変化時にも見直しの対応をしています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子は、個人記録を残し、また、申し送り簿を活用し、職員間で連携を図り、援助に結びつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ本人の希望に添えるように対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる行事に積極的に参加することにより、地域の方からも催し物があるときには声を掛けていただくようになった。日々楽しく過ごせるよう、支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が、遠方の方が多く、受診の度に来ることが出来ないため、施設で対応している。家族同意が必要な場合は、連絡し、次回受診時に来ていただくようお願いしている。	かかりつけ医は入所の際も今までの医師を継続していただいております。基本的には職員が受診に同行し、医師にご利用者の状態を説明しています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に情報交換をするようにしている。必要に応じて受診したり、家族に連絡をとる体制をとっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	以前、入院者が居たときは、家族や医療相談員と連絡を密にし、ご本人の状況や退院後の生活について相談・指導をしてもらっていた。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	前回の外部評価実施後に、重度化した場合における対応に係る指針を作成し、必要に応じて随時説明していくこととしている。また、職員間でも話し合いの場を設け、看取りは行わない方針を決定した。	管理者はグループホームを中間施設ととらえ看取りまでは事業所では行なわないという考えであり、前回の課題であったホームの重度化した際の対応の指針も作成されました。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えての定期的な訓練は行っていないが、緊急時の対応マニュアルを作成し、緊急連絡体制を確認している。	緊急連絡網、緊急時の対応マニュアルは作成されており、前回の課題であった救急救命の講習も近隣の病院で受講されていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の持ち出し物品を準備し、避難場所や移動方法を確認している。また、消防署の方から指導を受けながら、入所者が安全に避難できるよう、年2回の防災訓練を実施している。	年に2回火災を想定した避難訓練を実施し、地域の方にも参加していただきました。職員と地震や水害時の対応も検討したほか、前回の課題であった非常用食品及び水の確保もされていました。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、プライバシーを傷つけないよう気をつけながら援助している。	広報誌に写真を載せる際も必ずご家族から同意を得ています。日々のご利用者への声かけについても幼稚な言葉などは使用せず、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをしています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを決めるときは、入所者にも意見を求めるようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ、個別対応を心がけ援助している。ご本人の要望がある場合は、可能な限り対応するようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別に、美容室や理髪店への外出のお手伝いをしている。また、サービスで、施設内で髪を染めている方もいる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活リハビリを念頭に、個々に合った作業を見つけ、職員と一緒に食事の準備をしている。また、嗜好にあったメニューや季節の食材を使ったメニュー作りをし、食事が楽しいものになるようにしている。	調理作業を手伝っている方や片付けを行なっている方など、ご利用者の能力に応じて役割分担がされています。また、ご利用者に食事を楽しんでもらうため外食に出かけたり、ホームの畑でなす・ピーマン・トマトなども栽培し、収穫を楽しんでいます。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医による栄養指導を基に、野菜を多く取り入れたメニュー作りをし、摂取量も活動状況や食欲に応じ、個々に加減している。必要な方には、間食で、捕食している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事後、口腔ケアをしている。ほとんどの方は、自力にて清潔の保持ができていますが、必要な方には、声かけをしながら援助している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほぼ全員が、尿・便意があり、トイレで排泄されている。尿漏れがある方には、トイレに入られた時に、時間をみて尿とりパットの確認をしている程度。	ご利用者の排泄パターンを把握しており、状況に応じた声かけを行なっています。必要に応じては排泄チェック表を使用し、管理をしています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と野菜を多めに使った食事を心がけ、毎日、排泄の有無を確認している。また、便秘傾向の方には、適宜声かけをし、必要に応じて、便秘薬の内服をしていただいている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒否する方が居り、その方には、皆さんが出掛けているときに、声かけをし、入浴してもらっている。また、ご本人の希望を優先するようにしている。	一般の家庭と同じタイプのお風呂があり、入浴チェック表にて管理し、ご利用者の希望に応じた入浴支援がされています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前に居室の温度確認をし、必要に応じ、暖房をつけるなどしている。また、就寝時間は、個々に任せており、寝たいときに眠っていただいている。時には、早く寝ようとする方も居り、時間をお知らせして少し起きていただいていることもある。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入所者の個別記録の表紙に病名・薬の内容を記載しており、状態の変化を見逃さないように努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天候を見ながら、買い物やドライブ・散歩などへ出掛け、地域とのつながり・触れ合いを持つようにしている。また、食事の準備や洗濯物を干す・たたむ・畑で草取りをするなど個々に合った作業をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、入所者個々の希望に沿うように援助しているが、希望に添えないときなどは、買い物やドライブに出掛けるようにしている。	近くのスーパー、ご利用者の自宅、外食支援、理美容支援などご利用者の要望に応じた外出支援に努めています。また、季節に応じてお花見やイチゴ狩りなどへも出かけています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多少の小遣いをお持ちの方も居るが、在宅時代より、金銭管理ができなかった方には、施設でお預りしており、必要なものやご本人が欲しい物を購入したりしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話を希望するときは、時間を見計らって支援している。また、季節の便りを友人などに出す際もプライバシーに配慮し、支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬場は、リビングにコタツをセットし、寛げるようにしている。また、植物を置いたり、お花を生けたりし、季節感を味わえるようにしている。	共用スペースはきれいにされており、家庭的な雰囲気がありました。日々の暮らしぶりが分かる写真が掲載してあり、季節感を出す工夫もされていました。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の椅子に座り、本を読んだり、リビングでテレビを観たり、一人になりたい時は、居室にて過ごすなど、入所者が思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、在宅で使用していたものを持参されており、使い勝手が良いように配置されている。	昔から使用していたタンスやテレビを持ち込んでいたり、写真や人形などを飾るなどして、自分に合った居室にされていました。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の入所者について、職員が現状の把握をし、職員会議での意見交換により、ご本人にとって、何がベストかを検討・援助を実施している。		